

## 松川町リニア中央新幹線建設工事対策委員会〔第24回〕会議録

1. 附属機関等の会議の名称 松川町リニア中央新幹線建設工事対策委員会〔第24回〕
2. 開催日時 令和4年12月26日(月) 19時00分から21時00分まで
3. 開催場所 松川町役場 2階 大会議室
4. 出席者氏名  
【松川町リニア中央新幹線建設工事対策委員】※敬称略  
知久克志、新井正彦、村田肇、矢澤登、北林昇、唐沢寛文、下澤義彦、中平文夫、  
森谷岩夫、坂本勇治、小澤文人、松下敏章、熊谷誠、神田葉子、松浦善文、西尾明廣、  
北原俊秀、  
【JR 東海】  
中央新幹線長野工事事務所 杉浦所長、太田垣課長、齋藤主任、黒澤主任、工藤主席  
// 大鹿分室 水上室長、水野主任  
【長野県】  
飯田建設事務所 リニア整備推進事務所 大島企画幹兼調整課長、田中課長補佐  
【役 場】  
宮下町長、岡田副町長、小沢課長、片桐係長
5. 議題  
(1) 発生土運搬について  
1) 松川町より  
①町道整備の進捗状況と運行ルートの変更時期について  
2) JR東海より  
①大鹿村内リニア工事進捗状況  
②発生土運搬車両の運行状況  
③対策土について  
④その他  
3) 質疑応答
6. 非公開の理由(会議を非公開とした場合)  
—
7. 傍聴人の数  
4人
8. 会議資料の名称  
・会議次第(町作成)  
・別紙資料(松川町作成作成)



また、現在皆様目に見えてわかってきているのが片桐松川沿いの洞新線と護岸線でございます。JR 東海様にご協力をいただきながら、町道整備が進んできております。今回の町道整備、普通は道路の新設など年単位で時間がかかるところを、本当に近隣の住民の皆様、また関係事業者様、多くの方にご協力をいただきまして、今何とか目途が立ってきているというのは、目に見てとれております。こちらに対しまして本当に感謝を申し上げます。

本日の会議につきましては、発生土運搬の現在の状況と、また JR 東海様から工事の進捗状況などの報告があるという会議でございます。大変お忙しい中ではございますが、こちらの説明もスムーズにさせていただきますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

なおご覧の通り私この後、消防団の年末警戒の出発式がございまして 30 分ほど中座をさせていただきますがご理解をお願いいたします。それでは本日もどうかよろしくお願いいたします。

(小沢課長)

続きまして、JR 東海より中央新幹線長野工事事務所杉浦所長お願いいたします。

(JR 東海／杉浦所長)

皆さんこんばんは。JR 東海中央新幹線長野工事事務所長をしております杉浦禎信と申します。本日は、我々の方から工事の内容等を説明させていただける機会をいただきありがとうございます。また日頃から中央新幹線の建設に対してご理解ご協力を賜りまして、心からお礼を申し上げます。ありがとうございます。

さて中央新幹線の建設ですが、ご承知の方も多いと思いますが、先週の 12 月 22 日、長野県駅の起工式と安全祈願式を無事に執り行うことができましたところでございます。起工式を行ったからといって急に何か大きな動きになるというわけではありませんが、これまで通り、一つ一つ着実に、事業を進めているというところです。前回の対策委員会のときから比べても、先ほど町長もおっしゃった通り高森町の置き場の方もとりあえず一旦済みしました。今は駒ヶ根市の方に運搬させていただけるということで、少しずつではありますが、いろんな事業を完成させつつ、これも先ほど町長がおっしゃってくれたように洞新線の町道整備も少しずつではありますが、着実に進めて、事業全体をじわりじわりと推し進めているというのが今の我々の段階であります。進めながらも、皆様におかれましては、例えばそのダンプの運搬がどうだとかいろんな疑問なり心配なりあると思いますので、こういった会議を通じて、我々の方にご意見やご質問等をいただければそれに対応してまいりたいと思いますので、本日もどうぞよろしくお願いいたします。

(小沢課長)

続きまして長野県より、飯田建設事務所リニア整備推進事務所調整課大島課長お願いいたします。

(長野県／大島課長)

皆さんどうもこんばんは。私長野県飯田建設事務所リニア整備推進事務所調整課長大島でございます。本日もよろしくお願いいたします。日頃より町当局を初め、対策委員の皆様方におかれましては長野県の進めております建設行政につきましてそれぞれの立場で、ご理解ご協力を賜りまして誠にありがとうございます。本日説明の方をお聞きいただいた後、ご議論いただきまして、ご理解を深めていただければというふうに思っております。よろしくお願いいたします。

(小沢課長)

以降につきましては、対策委員会設置要綱第 5 条に、会議は委員長が議長となることから、下澤委員長代理の進行でお願いをいたします。

(下澤副委員長)

ただいま事務局の方から説明がありました通り、委員長が選出するまで私の方で務めさせていただきます。ご協力よろしくお願いします。

先ほど事務局から説明がありました通り、前回までで黒澤委員長が退任されました。現在委員長席が空席である状況でございます。したがって、新委員長選出をお願いしたいと思いますが、資料 7 ページにあります松川町リニア中央新幹線工事対策委員会の設置要綱第 3 条第 2 項に、委員会の委員長および副委員長 1 名を置き、委員の互選により決定するとございます。つきましては、立候補を募りたいと思いますが、どなたか立候補される方いらっしゃいますか。なければ事務局に腹案があるようですので、それでよろしいですか。

(小沢課長)

それでは委員長に松川町議会議長の中平文夫さんをお願いしたいと思います。

(下澤副委員長)

事務局の方から発表がございました、議会議長の中平文夫さんをお願いするということで異議ございませんか。ないようでしたら拍手をお願いします。

ありがとうございました。それでは委員長に中平さんよろしくお願いします。それでは私の方は委員長代理を解かさせていただきます。ありがとうございました。

(中平委員長)

皆さんこんばんは。ただいまご紹介いただきました中平文夫と申します。前回第 23 回の対策委員会でも黒澤前委員長が、議会組織編成のお話をさせていただいてと思います。今回より森谷議員、坂本議員、そして私と 3 名が、今回からお世話になることになりましたのでよろしくお願いします。

また議長という立場上の浅学非才ではありますが、私が委員長を務めさせていただくことになりましたのでよろしくお願いします。進行など不慣れな点もございませうけれども、前黒澤委員長同様に皆様のご協力をお願いしたいと思います。今後とも一つよろしくお願いします。

それでは早速でありますけれども 3 番の会議事項の(2)発生度運搬について、1) 松川町より、それと 2) JR 東海さんより、別紙資料にて順次説明をお願いします。

小沢課長説明

(中平委員長)

続きまして JR 東海さんから説明をお願いします。

JR 東海説明

(中平委員長)

説明をしていただきました。前回の委員会の中で、委員の方々から説明をしていただきたいということで、JR 東海さんにもお願いしたものを今日は説明していただきました。これより質疑に入りますけれど、先ほど私の方から言い忘れましたが、前回と同様、コロナ禍でありますので、この会議を9時ぐらいまでには終了させていきたいと思っておりますので、ご協力の方をよろしくお願いいたします。

それでは町と JR の方から説明がありました。その件について質疑をお行いたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。質問のある方は挙手していただければと思います。はい、どうぞ西尾さん。

(西尾委員)

公募委員の西尾でございます。JR 東海さんの要対策土の説明いただきましてありがとうございます。ご質問なんですが、今まで先進杭であるとか本杭を掘削されて、その中で対策土とそれから通常資源として使うことが可能だというふうに表現されている通常の土が出ているわけですが、大体どれくらいの割合でこの対策土が出てきているのでしょうかというのが一点と、今、大鹿村内の JR さんの社有地に保管されてるといわれている対策土の累計がどれくらいのm<sup>3</sup>になっているのでしょうかというこの2点をお伺いいたします。

(中平委員長)

それでは JR 東海さん、お願いします。

(JR 東海/水上分室長)

ご質問ありがとうございます。大鹿分室長の水上でございます。

対策土がどれくらい出ているかというご質問でございますが、全体で申し上げますと 3000 m<sup>3</sup>ほどの対策土が仮置き場 E というところに仮置きしております。どれくらいの割合かという点は、掘る場所とか出てくるところは出てきますし、出てこないところは出てこないことで一概に何割かというところは申し上げられませんが、今のところ出ている対策土は基本的にホウ素とヒ素の2種類です。基本的には南アルプストーンの方から出ております。

主にそちらからは、山の地質状況によりますが、粘板岩というところからヒ素が出ていて、それから蛇紋岩というところもあります。蛇紋岩の区間については一部ホウ素が出ており、その部分だけが今のところ出ている状況であります。どれくらいの割合かというとなかなか難しく、かなりの頻度で出ているわけではなくて、数ヶ月に一度とか、その程度のレベルで出ていますので具体的な割合等に関してはご容赦いただきたいと思います。

(中平委員長)

西尾さん、いかがでありますか。

(西尾委員)

今まで出ているのが粘板岩ですかね、そこから主に出ているということなんですが、そこを掘るとこの中ではどれくらいの割合なんですか。

(JR 東海/水上分室長)

なかなか割合っていうとあれですが、今の掘削しているトンネルがほぼ粘板岩でございます、この小渋川から掘ってるところはほぼ粘板岩なので、その中でも混じってるところと混じってないところがあるという状況でございます。

(JR 東海/太田垣課長)

担当課長の太田垣と申します。補足させていただきますけれども、今掘っている場所は分室長が申し上げた通り、基本的にはどこも粘板岩が出ています。青木の非常口だけは違うんですけども、南アルプス工区の 3 か所の非常口は、基本的には粘板岩を今掘っていますので、粘板岩のうちの仮置き E に仮置いてあるのが 3000 m<sup>2</sup>ということです。

何ヶ月かに一遍ぐらいしか今出ていない程度ですので、今のところは非常に少ない頻度ではございます。割合というのは難しいのですが、毎日掘っているうち数ヶ月に一度だというぐらいのご認識いただければと思います。ただ、この先も静岡までの県境まで基本的には同じ地質が続いてまいりますので、粘板岩が主体のところではあります、たまたまこれまでが少なかった、多かったというのは、この先ちょっとわからないところでございます、この南アルプスの地質というのは海の底にたまったものが、そのプレートに押し付けられて、せり上がった地質で非常に複雑なものですから、実際に今後どれぐらい出てくるのかというのはわからない状況でございます。これまで出てきた量は想定しているよりも全然少ないというぐらいの認識で私どもは捉えております。説明になったかどうかわかりませんが、今そういった状況でございます。

(中平委員長)

はい。西尾さんどうぞ。

(西尾委員)

結論的には JR 東海さんでも現時点で要対策土がどれぐらいの m<sup>2</sup>になるかどうかわかりませんと、こういう理解でよろしいですかね。はい、わかりました。

基本はやっぱり要対策土は、どういう対策をとろうか、どこか持って行って埋めて遮水シートで覆いますとかですね、やるということにしても、基本的にはそれは JR 東海さんが確保した土地で管理していただくというのは、これが大原則ではないかと私は思っています。

そうは言ってもですね、現実的に過去の要対策土の処理するのは国交省の発注した工事、NEXCO が発注した工事、それから自治体が発注した工事ありますけど、大体事業地内に使ってきてるわけですよ、施工例なんか見ると。

今回リニア中央新幹線の難しさというのは、要するに品川から名古屋までざっくり言うとチューブ状のものを作ると、事業地として盛土でそれを使うということが基本的にほぼ不可能だといふところがおそらく難しいところなんだろうと思いますけれども、それは対策土ではなくても普通の土でも同じことだと思うんですが、要するにご説明の中でもありましたけれども、そんなに心配しなくてもいいんだよと言われてもですね、ヒ素だとか六価クロムだとかって言われてですね、我々が今この時点で結構でございますよと。今計画されている盛土を使うような工事箇所、何ヶ所かありますよね、そこへもうずっと奥の方へ使うんですと、そこで普通の土を被覆するんですねと、いうふうなことがあったとしてもですね、将来我々の子孫が安心していただけるんですかねという問題になると、これま

た違った議論が出てくるんじゃないかと思うんですね。だからそのところを、例えば我々リニア対策委員会ってここに名前を連ねてやったときに、この委員会でですね基本的にゴーサインに賛同したんじゃないかと、特に異論が出なかったんじゃないかっていうことだけは、やっぱりあってはならないだろうというふうに私は思っています。

なので、今日南信州新聞にも出ておりますけれども、大鹿の皆さんは自分の村内にそういった対策土を抱えているわけですから、より現時点でも深刻だろうと思うんですが、これは将来的に要対策土を公共工事に使ってよねと、そういう依頼を先日も JR 東海の副社長さんが来られて要請をしましたという記事を読みましたが、そのところはですね。しっかり、やっぱり我々も考えていかなければならないだろうなというふうに考えてます。ですから繰り返し申しますけど、量が少ないのであれば JR 東海さんが確保する社有地の中で、しっかり将来にわたって管理し続けていただくというのが基本ではないかというふうに思います。以上です。

(中平委員長)

今の意見では、量が少なければ JR 東海さんの所有の土地で将来にわたって管理してもらうのが一番いいんじゃないかなというご意見でしたけど、そういう点に関してはいかがでございますか。

(JR 東海／黒澤主任)

ご意見ありがとうございました。まさにおっしゃる通りだと思います。量が多かろうが少なかろうが、まず自分たちの用地というのは、これも基本原則だと考えています。

ただ再三申し上げた通りでどれくらい出てくるかがなかなか見通せない、という中で我々の自社用地、今既に確保しているところだけで間に合うかどうかというところもなかなか目算がつきにくいというのが実態でございます。

そういった場合に、例えばどこかの発生度置き場を新たに要対策土用につくるですとか、あるいは公共事業の方でご活用いただけないかというご依頼をさせていただいているところではあるのですが、どちらのケースだったとしても適切にその造成盛り土を未来永劫管理する責任は間違いなく我々にあるというふうに考えています。ですので、例えば要対策土のための発生土置き場を今後新しく確保しますという場合になった暁には、その場所については、我々の方で用地もしっかり取得させていただいて未来永劫しっかり管理するという体制を構築していくことを考えておりますので、そちらについてはご理解のほどよろしくお願いいたします。

(中平委員長)

今の JR 東海さんの回答でいかがでありますか。西野さんどうぞ。

(西尾委員)

基本的には当社で管理するのが、量の多寡に関わらず基本だというお話をいただきましたのでその点は確認してですね、私のこの件についての質問は終わらせていただきますありがとうございます。

(中平委員長)

今のお話の件につきましてはぜひ JR 東海さんの方でも真剣に考えていただければと思っております。

ますのでよろしくお願いします。他にどなたかご意見ありますか。北林委員。

（北林委員）

対策土の説明ありがとうございました。私福与の区長をさせていただいておまして、福与にも大鹿からの発生土を今後のところで何十万m<sup>3</sup>か置かせていただくっていう進行になっております。

それで15ページ16ページのところでお聞きしたいんですが、まず15ページのところで、自然由来金属の基準不適合の中に何種類かあって16ページでなんとなく安心なんだっていうふうに理解される資料構成になっておるんですが。素人が考えますと、カドミウムですとか、水銀ですとか、ヒ素に関わりましたが、過去に重大な健康被害を起こして今も裁判が続いているっていう状況があるんですけども、その下のひじきの例はよくわかるんですけども、一切摂取してはならないといったものではないってことで生涯にわたって飲用し続けても影響がないということは、なんとなく説明でいくと大丈夫だっていうふうになるんですけども、要対策土ではないかもしれないんですけども、発生土を置く福与の地区にどの程度の濃度なので、安心していいんですよっていうそういう説明をもう少ししていただけたら、今後のところでありがたいと思います。以上です。

（中平委員長）

今の福与のところへ発生土をこれから置くわけなんですけれど、その中にこういった下の16ページを見ますと非常に安心感を持つような説明なんですけれど、そこら辺はいかがでしょうか。JR東海さん。

（JR東海／太田垣課長）

福与地区につきましては、町から候補地として情報提供いただいております、町と活用の仕方について協議させていただいておりますので、そういった中で必要な説明をしてみたいと思います。基本的には持っていくとすると、対策土じゃなくて通常の土になろうかと思っておりますけれども、そこも含めて、まだ町と協議を続けているところでございますので、協議状況についてはまた今後進みましたら説明ができるかと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

（中平委員長）

北林さん今のような回答ですけど、いかがでありますか。

（北林委員）

今後のところで結構ですので、住民としてはそういう不安を持つ人もいますので、ぜひこの程度の説明ではなくてもう少し詳しい説明をお願いしたいと思います。本日でなくて結構ですので、よろしくお願いいたします。

（中平委員長）

今の福与の件は、正式にまだ決まってませんので。徐々に決まりつつあるんですけど、そういった心配がないように町の方でもきちっとJR東海さんと打ち合わせをしながらですね、進めていくかと思っておりますけど、その点いかがですか、そんなような回答でよろしいですか。



(宮下町長)

ありがとうございます。やはりこれだけ話題になると当然そういう不安を持った方いらっしゃると思いますので、私達も JR 東海ときちんと協議をする中で、実際に必要な説明については事業固まってきたときに改めて専門的なご説明いただくように町の方からも求めてまいります。よろしくお願ひいたします。

(中平委員長)

そんな回答でよろしいですか。他に何かございますか。新井の区長さん、どうぞ。

(新井委員)

上新井区会の新井と申します。今までも出てますけれど、対策土の運搬についてもう一度確認というか、聞きたいことがあります。最終的には処理をした上で対策土を運搬するケースも出てくると思うんですが、どこに運んでいくのかとか、いつ頃から運ぶのかとか、そういった今後の予定をその都度情報を開示していただいて、今後の作業を進めていただくことが可能なかどうか。そこら辺をちょっとお聞きしたいんです。

(中平委員長)

運搬する場合の情報開示はきちっとしていただけるかどうかという質問でありますけど、JR 東海さん、どうぞお願いします。

(JR 東海／太田垣課長)

発生土の運搬につきましては、通常の土もそうですし、対策土も同じなんですけれども、またどこに運搬するっていう話が決まりましたら、その都度ご説明をしてみたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

(中平委員長)

新井さん、今のようなご説明ですけど。

(新井委員)

今後にわたりまして、そういった早めの情報開示、それから新たな残土処分場が見つかった場合、今後こういうところに置くとかいった情報も、なるべく早め早めに対応していただければと思いますので、よろしくお願ひします。

(中平委員長)

今後発生する発生土の運搬状況等々について、また要対策土の運搬についても、今 JR 東海さんからもご説明があった通りであります。また発生土の置き場についても町とも協議しておりますので、はっきりわかり次第、町の方でも徐々に開示していくと思いますので、よろしくお願ひします。他にご質問はございませんか。

(矢澤登委員)

上片桐区会の矢澤と申します。今日、町から交通量調査の結果ということで出されたんですが、結局今後、伊那と上赤須で出た場合 280 台増えるっていう数字が出て、交通量の約 5%増えるっていう数字が出てきたんで、その 5%っていう数字見て、そんなに大した数字じゃないなというようなことを感じたんですけども。今日いただいた資料の 7 ページの発生土度運搬車両台数の所の、上新井交差点、幾台通ったかという数字がずっと載ってます。これを足して、今まで福与を通らなかった台数を加えると 288 台、上新井の交差点を通ったということになります。

そうすると、5%ぐらいだなと思っても、その 280 台という数字を見ると、今まで上新井の交差点を通過した台数とそんなに変わりはないと。上新井交差点の渋滞がうんとしたことがあるんですけど。あの頃は多分 288 台あそこを通過したじゃないかと、数字的に予測するわけなんです。そうすると、この 280 台が小松川橋の辺を通過した場合、どうなるかという数字だけで考えた場合に、非常に心配な面が出てきたなっていうことを思ったんです。数字だけではいけないんですが、ざっくり計算して見てみると、意外とたくさんのダンプがそこを通るんだけど、信号等もやはり相当検討していく必要があるんじゃないかなっていう、そういう考えを持ったんです。数字だけで申し訳ありません、その点が気になりました。以上です。

(中平委員長)

5%の部分のところをもう少し何かわかるような説明をどなたかしていただければ。上新井信号のところですよ。そのこのところの件ですけどどなたか。ここの 8 ページの部分で。5%って言われてもなかなかピンとこないというところでありますので、そのこのところをもう少しわかりやすく説明していただけると非常にありがたいんですけど。小沢課長お願いします。

(小沢課長)

この資料の 2 番で説明をさせていただいたのは 5%ぐらいが増えるんじゃないかというような感じ。数字ですので、表じゃないのでわかりづらかったのかなと思います。

ただ国道で走ればダンプがその分だけ増えるということで、今までも新しい洞新線から国道に出づらいいんじゃないかと、竹村工業さん前の護岸線から降りてきたときに、国道で左に行くのはいいんだけど、右折するのがなかなか出づらいいというようなお話も伺いました。町の方として何ができるのかということで、今現在藤森の信号と鶴部の信号を同時に赤になれば、信号を抜けた車がいなくなる時間帯ができるということで、そうすると交差点から国道に入りやすくなるんじゃないかというような形で考えております。今現在は協議中ということでご説明をさせていただきました。

それから護岸線の方はリニアの方では何ともできないんですけども、洞新線の方に関しましては、今の国道より運動公園に向かって同じような道を改良していこうという計画で今現在、建設水道課の方と進めております。これで交差点の改良が進んだ場合は、やはりここにはも必要なのかなというふうに考えておりますので、安全管理は町の仕事でありますので、そのぐらいの感じで、ちょっと車の台数が何台増えようが、やはり国道ですので通行量がやはり多いと。そこから枝線から出てくるにはやはりなかなか出づらいいという中で、今言ったような形で将来的になりますけれども、進めていかなければならない事業なのかなというふうには思っております。ちょっと回答にはなっておりませんが、将来的にはやはりあそこは信号機をつけれるような改良工事が必要という形で考えて

おりますので、ご理解いただければと思います。よろしくお願いいたします。

(矢澤登委員)

数字だけで言って申し訳ありませんが、やはり今まで言ってますが、心配だということはぜひ考慮していただきたいなと思います。そしてもう一点、長期的なことで小沢課長さんから話あったんですけど、私もその通りだと。小松川橋を渡って、護岸線通って平石橋のクランクを渡るっていうこと自体が危険で、効率も悪いんじゃないかなということで、やはり早く洞新線を、鉄橋下を通して道を早く広くしてくれれば、今の心配が多少解消されると思いますし、結局広域農道にも繋がって、上伊那から来る車も、立派な洞新線ができておれば、利用できるし分散化もできるってことで、ぜひ町民グラウンドの道を早く何とかしていただきたいなと、そんなふうに思います。以上です。

(中平委員長)

そこら辺のことをまとめて町長の方から回答がありますのでよろしくお願いいたします。

(宮下町長)

ありがとうございます。本当におっしゃる通りクランクの部分、40年か50年か存じ上げませんが全く協議ができてない状態でした。今回この発生土運搬のことも使わせてJR東海さんにもお骨折りをいただいて、やっと国も含めて実際に動き出しております。来年できますとか再来年できますっていう範囲ではございませんが、実際に今協議を開始しておりますので、もう少しだけお待ちいただいて。区長さんおっしゃる通りでございます。そこはまっすぐ上がった方が必ず町にとってもプラスの話でございます。ただ結局あまり事を急いで、事を壊すわけにいかないものですから、慎重に話を進めて、実際に動き出しております。どういうふうになるというのは、お示しできる時期が参りましたら、またお示しをさせていただきますが、地元からもこのように声を上げていただくことが国や、JRの特に在来線飯田線の皆様に対しての強い要望の根拠にもなりますので、引き続き頑張ってお参ります。よろしくお願いいたします。

また先ほどの上新井の交差点の話でございますが、実は上新井の交差点混む要因がもう一つありまして、先ほどの国道153号線の5128台の交差と、松川インター大鹿線、ちょっと古い情報で時間が少し違いますが、6259台のクロスをしておりますので、その台数は半分とは申し上げませんが、あそこの状況と全く同じではないということは、ご理解いただければと思います。どうかよろしくお願いいたします。

(中平委員長)

矢澤さん、よろしいですか。前回の会議の中でも矢澤さんから同じところを指摘されてお参りまして、町の方でも今、町長が話した通りでございますので、鶴部と藤森の信号の間が、洞新線と護岸線と153号線と交差しておりますので、そこら辺も町の方も警察と協議をしながら、信号をどうしたらいいかってことも考えながら今やっておりますので、ぜひそんなことでご理解いただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。他にいかがでありますか。

(小澤委員)

商工会の小澤です。お世話になります。今の答弁なんですけども、もう数年も前から、商工会は護

岸線の整備を必ずやってくれてことで、要望書、意見書を出してまいりました。数年前は、町長ははっきり、あそこは将来に禍根を残すからやらないって最初言われました。ところがこの間、産業懇談会で再度そのことを尋ねましたら、急にやるってということになりました。これ、商工会の会員のいる前で、町長言われましたんで、どうせやるならもっと早くやってほしいっていうのが本当の気持ちですけども。今からやるってことなんで、もちろんやってもらわなきゃ困るし。私、その産業懇談会のときにいろんな案をお示しました。それについても検討していくっていうことを町長言われました。でも私としては本当にやるのかなっていうのが実際の気持ちです。今までどのぐらい私言ったかわかりません。この4～5回私はほとんど発言しませんでしたけれども、町がそういうことをやるっていう気持ちがあるのかっていう。将来的なビジョンがあるのかっていうことを、盛んに言ってますけども。町長ここでやるって言われたんで、これ重い言葉だし、本当にやるのかなっていうのが私は今本当の気持ちです。それぞれ区長さん、それに近隣の住民たち、それぞれ思ってると思いますけども。今の護岸線の広げ方も中途半端です。はっきり言って。途中広くなっても松川大橋の下のところは全然広げてないし。途中広げても、当然ネック状態になって、将来にわたってはそこが必ず問題になると思いますけども。その辺どうなっていくんでしょうか。町としては、その辺は広げていくのか。今のままでやっていくのか。その辺、初めて聞かれる方もいると思いますんで、はっきりした返答をお願いします。

(中平委員長)

はい。宮下町長どうぞ。

(宮下町長)

ありがとうございます。当然私が発言するということは、実現の可能性が出てこない限り私がやるということは発言しませんので、やると発言しているということはある程度見通しがついてきたとご理解いただいて結構でございます。また、禍根を残すのでやらないと言ったのは、おそらく、私も発言録持ってないんですが、平石橋から小松川橋までの左岸側の話だったかと思います。ちょっとそこは記憶の齟齬は私もあるかもしれませんがそのように理解をしております。

また、護岸線の上の部分につきましては、やはり地権者との絡みもございますので、将来的には拡幅できるような本線で今作っているのが現状でございますので、確かに一部拡幅しきれてない部分もございますが、発生土運搬のための、道路の改良ということでご理解いただければと思います。よろしく願いいたします。

(中平委員長)

小澤さんどうぞ。

(小澤委員)

ありがとうございます。当然松川大橋から北側の停車場線、上へ上がっていく上県道バイパスというか、あっちに繋がる線はできる予定はあるんでしょうか？

(中平委員長)

宮下町長。

(宮下町長)

ちょっと今日の趣旨から外れてしまっていて申し訳ありませんが、県の方にずっと要望していて、県もやめるという話はしておりませんし、また上片桐バイパスの先線の調査とあわせて、現実的にどういうルートがっていうことは、はっきり動き出しておりますので、そこは私がいろいろ言う段階ではございませんので、それはお答えしかねますが、町としては当然道路は、県が作っていただけるものは全部要望していくという姿勢は変わっておりません。よろしく願いいたします。

(中平委員長)

小澤さんよろしいですか。

(小澤委員)

いいです。前々回から、前回からよりは、進んだと思いますのでよろしくお願いします。

(中平委員長)

他にはいかがでございますか。はい。北原さんどうぞ。

(北原委員)

はい、お願いします。町の方への要望ということで、多分これは JR 東海さんの方ではないかなと思うんですが。先ほど小沢課長にもお願いしたんですが、せっかく開いた町道洞新線ですか。これについて、出口に今舗装がかかってないという状況の中に、今日国道走った方、おいでになりますか。物すごい。要するに舗装がかかってないということは敷砂利の状況なんですね。そこで、もう明らかにこれはもう、あそこの道を通るのが JR 東海のダンプしか通ってない、その車が持ち出してくる。要するに敷き砂利の砂利道一部と、碎石の一部と、それからダスト、これがもう一面に引っ張り出しちゃいました。今日 10 時半頃、ちょうど南風が吹いたときにもうわんわんとしたダスト。

だからもう我々が前もお話したんだけど、こういう点のちっちゃなこともやっぱり、これが要するに地元の、やっぱりすれ違いの一つの問題ではないかなと。

舗装業者が忙しいからできないという理由は確かな部分があると思うんですが、手の打ち方はあるでしょうと。なぜかという、私も大型であちこち飛び回るに、やっぱりこの冬の時期って跳石がすごいですよね。スタッドレスタイヤに碎石を挟み込むと抜けないために、高速で走ったときに跳石を、私も 1 年 2 回ほどフロントガラスを割ったことがあります、これ割って警察に届けても駄目なんですよ、証拠の石を持ってこいって言われます。要するに泣き寝入りということです。

今日も JR 東海さんのダンプが出てきたんですが、その後ついていくと、やっぱり出た瞬間の泥というのは、ものすごい勢いで後ろへ飛んでくる。それがずっと橋を渡って、すぐまた左に回って行って、こういう S 型が今でもついてると思います。

だから、こういうところも町としても常に誰かが見てるっていうことをしてほしい。出来ましたから通ってますじゃなくて。地元やっぱりそういう部分で苦情言われるってところはちょっとしたことだと我々は思うと思います。公共事業で、東京だとか名古屋でもし、都会であんなことやらもう事業を止めますよね。泥を掻き出してくるなんてことはもうあってはならん。八十葉さんもそうだと思うし、工事をやったところから土が出てくるなんてのは、はっきり言ってあってはならんと

いう、この原則に町としても対策をしていただきたい。

それと、旗振りの方が立ってるので、そんなあっちもこっちもできないかと思うんですが、せめて竹ぼうきを持って、例えば出て引っ張ってきた砂利の片付けぐらいは、車の間をみて掃くとか、仕事終了後に散水して流してしまうとか、こういうようなことってのは、やっぱりやればできることだと私は思いますが、どんなものでしょう。

それと出口のところのガードマンは、町の手配なんですか、JRさんの手配なんですか。ダンプが出入りするにあたっては、やっぱり誘導員は絶対的に必要だと思うし、先ほどの矢澤さんも言ったんだけど、鶴部から進行して飯田に向かう車ってのは、相当飛ばしてくるんですね信号機から始まって。あのカーブで結構急ブレーキを踏んだりして、ダンプがそこで回るってこともあったりするので、やっぱりそういうところの橋の上の雪等の凍結があったときには、おそらくそういう事故も想定しておかなくてはいかんだろうと思います。ですので、そのところに注意警告の看板一つもやっぱり必要じゃないかなっていうことを常に感じるんですが。そのところを町として、小沢課長、自分もまずはとにかく目を見ていただくには、通過をしたりそういう状況をやっぱり把握しながらチェックをしとっていただいた方がいいと思います。

せっかく JR 東海さんの車については、安全運転に心がけて今走っておられますので、そういう点は本当にいい部分もやっぱり我々としても認めていかなくてはいかんだろうと。

前もお願いをしたんだけど、逆に地元のダンプ、某会社の 2 名ほどのドライバーは、先日も竜東線で、今の新しい天竜川の橋の上ですね、70 キロ出してました。後ろを付いていったら。ですからもうハッキリ言って暴走運転。だからこういうドライバーがおるってことなんですね。だから、前に言ったように、町としてそういう事業者に通知物も、そんなもんでもいいわけですよ。地元の人たちはダンプカーといったらもう全部リニアのダンプだところ思われるかもしれない。やっぱその識別はしておくべきことであって、ちょっとしたことをやっぱりやるっていうのもこれは、対策室の仕事だと思いますので、そこら辺のところをはっきりとしていただきたい。以上の点をお願いします。

(中平委員長)

いろいろご意見ありがとうございます。今言ったようにあそこの洞新線から出てくるところの砂利で、リニアのダンプが出入りするときに、小石がいろいろ 153 号に出ると、そういった小さなことも含めて町の方では対策をどうするかっていうことのご意見とっております。また JR 東海さんであそこに警備員を置いていただいているんですけど、そういった方々にも、竹ぼうき一つ持って綺麗にするのも一つの案ということで、ご提案をいただいております。そういった件に対して JR 東海あるいは町のご意見がありましたらお願いします。小沢課長。

(小沢課長)

情報ありがとうございます。確かにですね、砂利を敷いた状況で、今は雪があるのかもしれませんが、乾いたときには砂埃が出ると思いますので、年内には砂埃が出ないような対応を、今現在の施工業者に言ってやっていただきたいと。年末年始に入りますので、それまでには何とか、何かを撒くなりですね、やりたいと思っております。警備員につきましては JR さんの依頼であります。

それから竜東線の方のスピードということでもありますので、松川町の方では、中川村、大鹿村、松川町で安全対策協議会開いておりますので、ここでも小沢砂利組合だとか、大鹿砕石とか一緒に来て、もちろん JR、県の皆さんも来ていただいて会議をしております。その時にはスピードの関係だとか、

クラクションの挨拶とか、そういうことはJRのダンプだけじゃなくて、ぜひやめていただくようにという形でお願いしておりますので、またスピードの関係も言っておりますので、またお集まりいただいて、そのようなご意見もあるということの中で、話をしていきたいと思っております。

それからスピードに関しましては、今日は交番所長お見えになっておりませんが、前回もたまたまにパトカーで通ってくれませんかという話をしておりますので、今回、また小林所長の方をお願いをしてみたいというふうに思います。よろしくお願いいたします。

交差点の手前の鶴部からの看板でありますけども、そこら辺に関しましてはJRと協議をしてみたいと思います。よろしくお願いいたします。

(JR 東海 / 太田垣課長)

誘導員についてはJRの方で立てております。ご指摘いただいた通り、誘導以外にも道路の土埃も綺麗にすべきだっていうのはおっしゃる通りで、私もそういう気持ちで取り組んでいかなきゃいけないんですけども、実際に交通量が多いところなので、どういったことが対応できるかっていうのは、町とも調整を検討してまいります。まず早く舗装を仕上げてくださいということかなと考えております

誘導についてですけど、今の誘導は私の車両が、あの作業ヤードから道路に出てくるところで、車両が出て行ける状態になっているかどうかというのを、ダンプの運転手に合図して、今出られるタイミングかどうかの誘導しております。これは工事中だからこういう対応ができるんですけども、本格的の町道が一般の道路として開通した暁には、なかなかこれと同じようにはできないというか、一般の車両は私も誘導できませんので、交差点が出来上がった後の車両については、一旦は誘導員を外した形で、車両の運行がうまくいくかどうかというのを様子見させていただければと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

(中平委員長)

北原さん、いかがでありますか。今のような回答がありましたけど。

(北原委員)

結構でございます。ただ、これはこんなことできるんでしょうか。例えば、ダンプ優先道路という解釈を取るのであれば、藤森の信号機だって併用して使うわけですよ、一般車両は。ならば、これから先、今度できた新しい道については要するにJR東海さんの残土運搬専用道路として制限というのは設けることはできないんですか。一般車両は藤森の方に回りなさい、こっちの道はダンプだけです。そうすると、工事が終了するまでの間はそこにJRさんの方から誘導員をつけてもらうっていう。だから当然ダンプのドライバーも安心して出れるし、一般車両においてもそういう誘導員の誘導っていうのはやっぱり必要になると我々は思うんですがね。

区別をつけたことによって、一般車両が通過すると誘導員はもう立てませんって今のご回答だとすると、いっそもうダンプ優先道路にして一般車両は入れませんっていう入り口に看板を置けば。

そういう道交法はないですが、そういう特例を作れるものかどうか。どうなんでしょう、今日の返事はできないと思うんですが。あくまでも優先はダンプで走ってもらいたい、とにかく1日も早く運び出して1日も早くもう終わることを我々願うわけですよ、だから協力できるところは協力していかないといけないと思うんで、一般車両はどうでもいいんですよ、はっきり言えば。だから藤森

から出ててもらえばいいんです一般車両は、従来のように。ぜひその点をお願いしたいです。

(中平委員長)

今の新しい提案でありますので答えられますか。一般車両は新しくできた道は通らないで、藤森へ回ってもらう。まっすぐ行くのはリニア関係のダンプのみということにすると、その前にいる警備員の方は、それならば警備員がついておっていただけるんじゃないかなというような判断で、そういうようなことができるかどうかは、今は答えができません。できますか、小沢課長。

(小沢課長)

確かに JR さんに費用を負担してもらった道でございますので、JR のダンプのみが走れば一番いいことだと思いますし、JR さんもそれの方が嬉しいのかなというふうに思いますけども、今現在でも一般車両が中に入ってきてしまっている状態です。これが、舗装ができて白線まで引きますと、この松川町資料左上の看板みたいなやつを、全て取ってですね、JR のダンプが往復という形になります。そうしますと、一般車両はいくら看板が、一般車両は進入禁止って書いてあっても、中に入ってきてしまいます。

それと、早くこの道を通りたいという方も中にはいらっしゃいますので、町としましては、町道認定をさせていただいて、ここは一般車両も通れるような道という形で持っていきたいと思っております。確かに JR のダンプだけという形にすれば事故もないのかもしれませんが、ここは最終的にはやはりどうしても中に入ってきてしまう車がありますので、そういうのを踏まえてあげたいと思っております。

それから藤森信号から新しい道までのこの間は旧道になります。ダンプは新しい道を通っていただくということで、こちら自主規制になりますけども、ダンプは通ってもらわないような形で自主規制の看板を立てようと思っております。そうしますと JR のダンプ以外の小渋砂利組合だとカ鹿砕石のダンプがこちらを通るという形になります。それらも一般車両になりますので、JR だけのダンプではなく、他の車両も通るといような形になると思います。なかなか JR のダンプだけが通るといような規制ができないのではないのかなというふうに思っております。以上でございます。

(中平委員長)

はいわかりました。いずれにしてもそういう回答であります。北原さんから言われた提案というのは、あの提案で大変貴重なものかと思えます。

また、北原さんが指摘していただいた砂利の件ですね。そういった小さいことでも、やっぱりこの対策委員会でどういうふうにしていくかってことを皆さんで共通認識として議論して、町民の皆さんが安心して暮らせるようにするのが一番いいことじゃないかなと思いますので、ぜひまたそういうような提案でも結構でありますので、ぜひまたこの場で皆さんで共有していきたいと思っておりますので、よろしく願います。他にございますか。よろしいですか。はい、ありがとうございます。それでは発生土運搬についてはこれで終了したいと思います。

私の方は今の質疑応答のところで終わります。それでは事務局にお返ししますので、よろしく願います。

(小沢課長)



それでは式次第の 4 番、その他になります。モニタリング調査等の関係は片桐係長より説明させていただきます。

#### 片桐係長説明

(小沢課長)

私の方からもう一点お願いいたします。今までも報告をさせていただいておりますけども、松川町ではリニア発生土を利用して前河原道路の設置を計画をしているところでございます。

その工事に向けまして、円滑に施工を進めることや、運搬台数の平準化を目的に、松川町の前河原にあります松川浄化センターへ発生土の仮置きを検討している状況でございます。

来年の春以降と考えておりますが、期間や台数、運搬ルートなどの詳細につきましては今現在検討中です。詳細計画が決定次第、地元、対策委員会へ説明していきたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。なおまだ確定ではございませんが、このような仮置き事業を計画しているということを対策委員会の皆様方にご承知おきいただければと思いますので、よろしくお願い申し上げます。以上でございます。

その他の私達の方で説明させていただきましたが、何かご質問とかありますでしょうか？

(西尾委員)

質問というか、今までの内容とちょっとかけ離れてるかというか、こういうところで述べさせていただくことが適切かどうかという疑問を持ちながらちょっとお話をさせていただくんですが。

先日、豊丘村のゆめあるてで 12 月 24 日にパネルディスカッションが行われておりまして、これは、YouTube でリアルタイムで視聴できる番組だったんですが、事前登録者が 300 人ぐらいいたんですが、その番組は何人視聴しているかを見てる人はわかるんですが、私が見たときは 5 人だったんですね。終わりの方へいくと 3 人ぐらいになっていてですね、非常にコーディネーター、それからパネリストの皆さんも奮闘いただいて、いい内容だったんですが、せっかくこういう取り組みをして、しかもある程度調整しているにもかかわらず、非常に視聴者が少ないっていうか、居ないと言っても過言ではないような状況なんですね。

去年行ったのを、青森大学の櫛引先生がコーディネーターなされたときもそうなんですが、その時は 47 人ぐらいだったんですよ。北部 5 町村で職員の方が何人合計でいるかわかりませんが、例えばその方々がある程度の割合で視聴したとしてもこんなことにはならないだろうと。

24 日のゆめあるても、そこへ参加した客席は映らなかったんでわかりませんが、あの拍手のバウつき方を見ても、せいぜい多めに見積もっても数十人程度。しかも、行政関係の方々だったと思うんですが。特に櫛引先生が新幹線学のご専門で新青森駅から 5 分ぐらいのところに住んでらっしゃるそうです。そのときにですね、新幹線の駅ができたからといって、予定調和的に何か今地域が抱えている問題を全て解決するなんていうことは幻想なんですよということをおっしゃったのが印象的ですし、24 日のパネルディスカッションでも、非常に将来を考えなきゃいけないよねというメッセージが非常に強く伝わってくる内容だったんですよ。

だから、そういう内容にしても、リニア新幹線の駅ができると、地域振興のために JR 東海さんが作ってくれる駅ではないにしても、せっかく駅ができるんだからそういうことに利用なさってはどうですかというお話も 22 回の杉浦所長のお話もあった通りですが、今の状況というのは、駅ができ

るが、それがどうしたっていう、そんな感じに私は受け止めてるんです。

これ松川町だけのことじゃないと思うんですが、せっかく我々がここでいろいろな交通量の問題とか、安全の問題とか要対策土もそうですよね、これから大きな問題になっていくんでしょうけど、そういったことをやりながらもですね、片方でそういう現状をどうとらえるのかということをやっぱり真剣に考えていかないとよくないのではないかというふうに大雑把に考えてます。

私自身の課題でもありますし、当然今日理事者も来ているので、どうか若い人がやはりこれから本当にリニアが開通するのであれば、その人たちが利用する行くわけですから、やっぱり今のうちからそういういろいろな意見を述べるような場を作っていくとかですね、何らかの形をしないと本当にこれ、駅ができる、それがどうしたという状況は、多分変わっていかないんだろうと思うんですね。

そういう意味で言うと、我々が今ここでやってる議論なんか本当に無意味なのかもしれない。

せっかく JR 東海さんが、今日もこうして大勢来ていただいて、いろいろな対応を今までもしていただいてきてますし、何かそういうこととの乖離があまりにも大き過ぎて、ちょっとその驚いているというか、どうしたらいいのかなという感想を持っています。この場にそぐわないお話をして大変申し訳ありませんでした。以上です。

(宮下町長)

ありがとうございます。私の方からお話させていただきます。この間の土曜日の 24 日にございました。確かにあの会場は 100 人を切るぐらいの人数でございました。その話の中で、やはり昨年木村先生そういう話をされていて、リニアの駅ができた自動的に盛り上がりではないよというお話、また今回は加藤先生という方から言われた中で、最後の方のまとめで、加藤先生からもおっしゃっていただきましたが、やはり地域が地域のことを明るく語れるところではないと、なかなかよそからただ人を呼んでこようとしても無理だっというような話の決着、落としどころもございました。

私も気をつけなければいけないと思うのは、やはり目の前の課題というのは住んでる方に多く見えてくるんですが、その課題を含めて未来の明るさっていう話がないとなかなか魅力ある地域ならないな、という形もありました。確かに YouTube 視聴者は私も気になって確認したら最大 7 名だったようです。

なので、そこは今後、5 町村でやっております北部総合事務組合の方でも課題として挙げさせていただきます。そんな中でもあの貴重な 1 人として見ていただきました西尾様感謝をいたします。今後やっていく中ですが、北部のこの事業、実は中学生高校生等に 2 年間かけて意見を聞きながらですので、確かにこの間のイベントとしてはちょっと寂しいところはあったんですが、今後もそういったいろんな、特に若い層に今やってることを伝えながら進めていきたいと思っております。よろしく願いいたします。

(小沢課長)

西尾さんよろしいですか。それでは時間となりますので、他にまだなければ終わりにしたいと思いますよろしいですか。それでは 5 番の閉会ということで下澤副委員長よろしく願いいたします。

(下澤副委員長)

長時間にわたりまして熱心にご審議いただきましてありがとうございました。それでは、これもちまして本日の会議を閉じさせていただきます。ご苦労さまでした。